

突然あなたを襲う心筋梗塞

図解

からだガイド

しめつけられるような痛みが突然襲ってきて、命取りになりやすい心筋梗塞。心臓病が日本人の死亡原因の二位を占めるのは、心筋梗塞による突然死が多いからだ。図をもとに、この病気の典型例をみてみよう。

二十四時間働き続ける心臓の筋肉(心筋)に、酸素と栄養を送るパイプが「冠状動脈」。大切な血管なので、簡単に破れないように何層かの膜で

できている。しかし、なんらかの原因で内側の膜が傷つくと、すき間に血液の中のコレステロールなどが入ってたまっていく。これを「アテローム」といふ。生活習慣病の一つ、高脂血症が怖いのは、アテロームがでやすくなるからだ。

こぶのように膨らんでくると、動脈の壁が厚くなってしなやかさを失い、動脈硬化につながる。血管の内側も狭くなって、血流が悪くなる。

血管の状態が悪化し、内側の膜が破裂すると、傷をふさごうと血小板が集まっていく。これが塊(血栓)になって血管を完全に詰まらせる。心筋梗塞の発症だ。

詰まった血管の先には酸素や栄養分を含んだ血液が届かず、心筋が壊死していく。冠状動脈の「上流」で詰まるほど、事態は深刻になる。

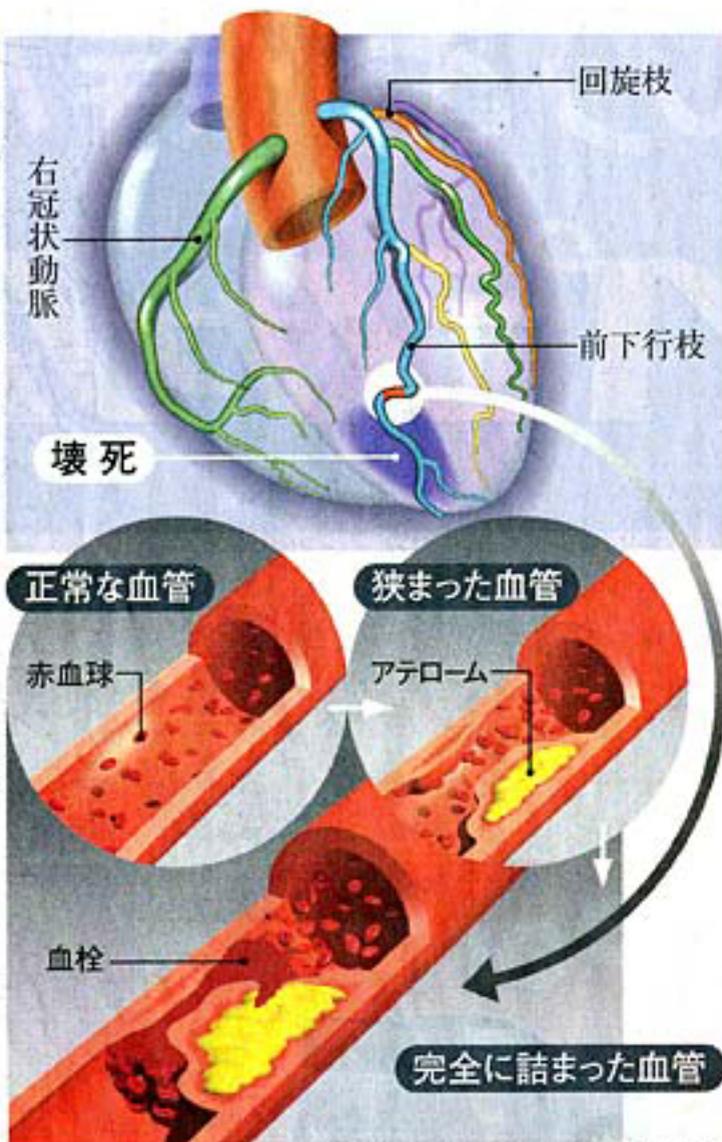
豊橋ハートセンター(愛知県豊橋市)の鈴木孝彦院長は、発症の怖さと突然性を「火山の噴火」にたとえる。「救命は時間との勝負。1時は命なりです」

効果的な治療はカテーテルというチューブを動脈に入れ、先端の風船(バルーン)

を膨らませて血管を押し広げたり、網状の筒(ステント)で固定し血液の通路を確保する方法だ。別の血管をはめ込むバイパス手術や、血栓を溶かす薬を静脈から流し込む方法もある。

予防の基本は高血圧や喫煙、ストレスなどの危険因子を減らすこと。高血圧だと血管の内側を傷つけやすくなり、動脈硬化も進めてしまう。たばこは血管を収縮させ、ストレスも心拍数や血圧を上昇させる。危険因子が重なるほど、リスクは高くなる。

突然の噴火を防ぐため、鈴木院長は「伝統的な日本の食習慣をもっと見直してほしい」と勧める。(田島 真二)



協力:豊橋ハートセンター デザイン:原 淳

心臓の血管が詰まっていく仕組み

健康